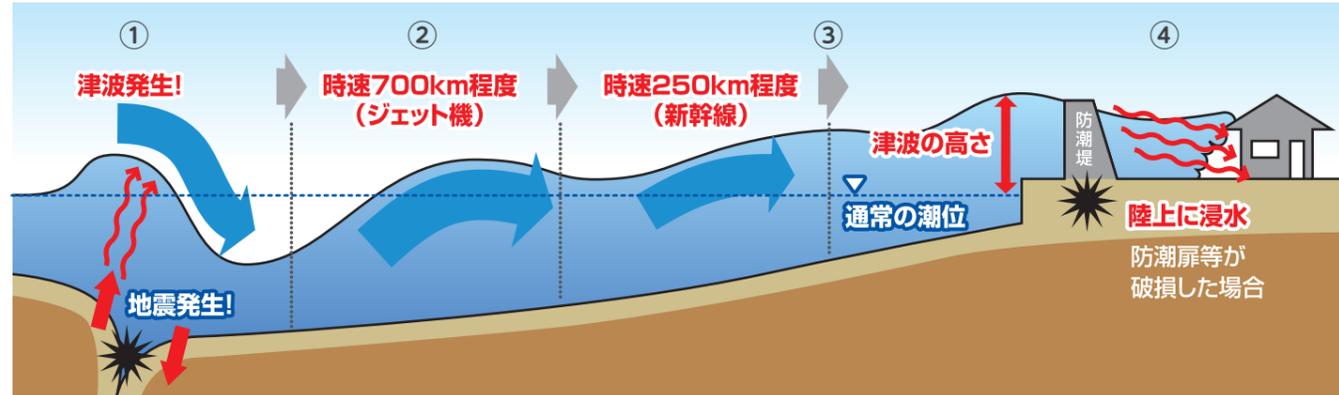


津波のメカニズム

海底で大きな地震が発生すると、海底が隆起もしくは沈降します。これに伴い海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するものが津波です。

「津波の前には必ず潮が引く」という言い伝えがありますが、必ずしもそうではありません。地震が発生させた断層の傾きや方向、津波が発生した場所と海岸との位置関係によっては、潮が引くことなく最初に大きな波が海岸に押し寄せる場合もあります。



津波の発生

- 地震により海底面が隆起・沈降し、海水面の上下変動を引き起こす
- 海水面の変動が大きな波となり、猛スピードで四方八方へ伝播し、沿岸へと押し寄せる

津波の伝わり方

- 水深が浅くなるほど速度を緩め、陸地に近づくにつれ後の波が追いつき、波高が高くなる
- 速度を緩めるが、走って逃げ切れるものではないので、津波到達前に避難する

海岸にいたら

強い揺れを感じたら、津波警報の発表を待たず、すぐに海から離れ、高台などへ避難しましょう。



川沿いに避難しない

津波は、河川を猛スピードで遡上してくるので、川沿いに避難するのは危険です。



津波は繰り返し襲ってくる

津波は、2回3回と繰り返し襲ってきます。様子を見にいったりせず、警報・注意報の解除まで気を緩めないようにしましょう。



自動車で避難しない

渋滞や浸水などによって動きがとれなくなり、かえって被害が拡大することがあります。お年寄りなど要配慮者の避難など、やむをえない場合にとどめましょう。



近くの頑丈な建物へ避難

津波の来襲まで時間的余裕がない場合や、すでに津波が来襲している場合は、遠くへ避難することは危険です。近くの鉄筋コンクリートなどの頑丈な建物の、なるべく高い階に一時避難しましょう。



正しい情報を入手しましょう

安全なところに避難できたら、ラジオ、インターネットなどで正確な情報を入手しましょう。



P.2 ※防災情報の伝達手段

原子力災害とは

原子力発電所では、運転に伴い放射性物質が発生しますが、通常は施設内に封じ込められています。「原子力災害」とは、安全対策が十分に機能せず、放射性物質が施設外に大量に放出されることで、一般の人々や周辺的环境に影響を及ぼすことです。放出された放射性物質は、空気と混じって放射性雲（プルーム）となり、風下に広がり、被ばくの原因となります。

※プルーム：気体状あるいは粒子状の物質を含んだ空気の一団

県内の原子力発電所

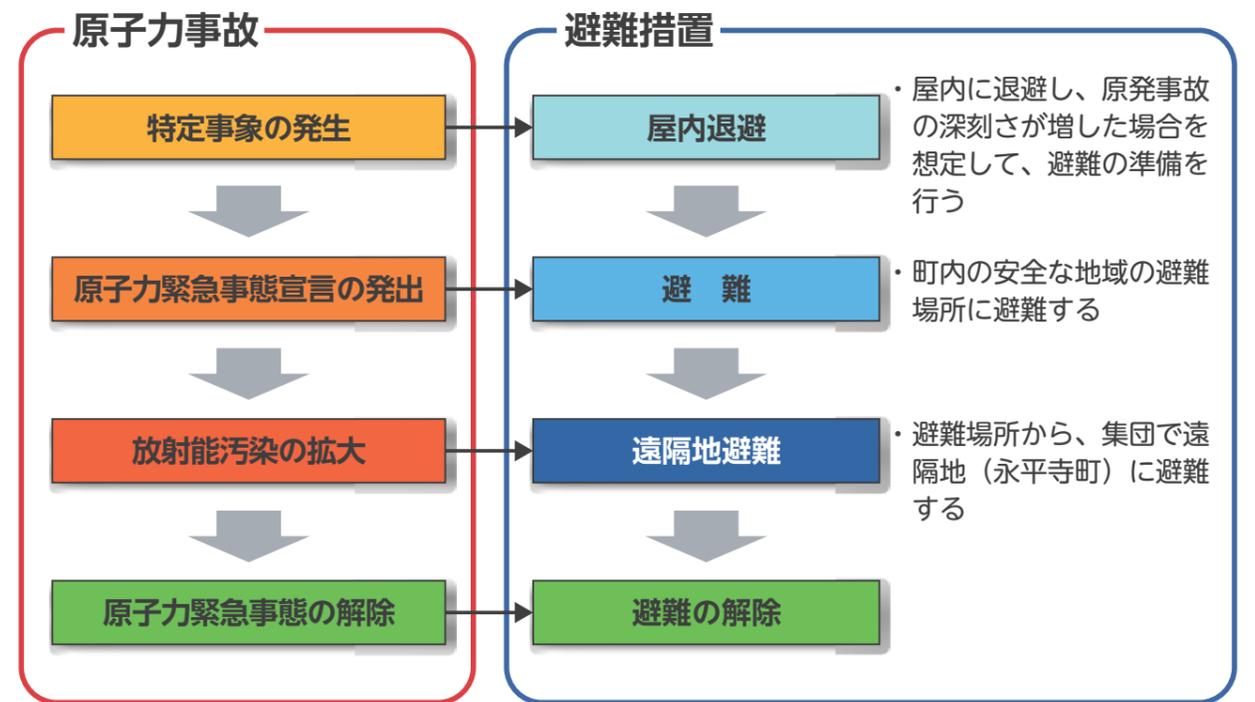
南越前町から30km圏内（UPZ）の原子力発電所は、敦賀発電所と美浜発電所です。（敦賀発電所1号機及び美浜発電所1・2号機は運転停止・廃止措置中）

① 予防防護措置準備区域（PAZ）（施設から半径おおむね5km）	特定の事故事象が発生したら、ただちに避難等を実施する区域
② 緊急防護措置区域（UPZ）（施設から半径おおむね5km～30km）	避難、屋内退避、安定ヨウ素剤の予防服用等を準備する区域

※敦賀発電所から南越前町役場までの直線距離は約18km、河野事務所までの直線距離は約9kmです。



原子力事故が発生した場合には、状況に応じて、屋内退避、避難、遠隔地避難を行います。国・県及び町からの指示に沿って退避・避難してください。



退避・避難の流れ